

【全体の概要】

- 全体の正答率は、県平均をやや上回った。
- 到達度別平均正答率「おおむね達成」は県平均と同じである。「十分達成」は県平均を大きく上回った。
- 観点別正答率は、「話す・聞く」「知識・理解」は県平均を大きく上回った。「読む」は県平均をやや上回った。「書く」が県平均とほぼ同じである。
- 無解答率が県平均より下回った。

	分析の結果・本校の課題		改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら読むことができている。 ● 質問の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することができていない。 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・ スピーチタイムでスピーチをする人の意図を捉えながら聞く練習を取り入れる。 ・ 話し合い活動の時間以外にも、話題の展開に沿って話し合うことができるように、よりよい話し合いの仕方やモデルを示す。
書くこと	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や意図に応じて、書く事柄を整理して書くことができている。 ● グラフを基に分かったことを書いたり、目的や意図に応じて自分の考えを書いたりすることができていない。 ● 書き手の表現の仕方をよりよくするため助言する。 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字数指定や書き出し指定、キーワード指定など、いろいろな条件付き作文に慣れさせる。 ・ 書いた文章を観点に沿って書いているか振り返らせ、友達と一緒に作品を推敲する場面を設ける。
読むこと	<p>正答率は県平均をやや上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目的に応じて、図と表を関係付けて読むことができている。 ○ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができている。 ● 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることができていない。 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の人物像について記述している部分を文章全体の中から自分で見つけて出し話し合う場面を増やす。 ・ 「すくすくタイム」の中で、多くの文章に触れ、問題を解く機会を増やす。 ・ 読書を推進し、いろいろなジャンルの文章に慣れさせる。
言語に関する知識・理解技能	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字を正しく読んだり、正しく書いたりすることはできている。 ● 平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることができている。 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を書く際、既習の漢字をできるだけ使って書くように指導する。 ・ これまで通り、家庭学習として、漢字の書き取りに取り組みさせる。 ・ 家庭学習でも、ローマ字を読んだり書いたりする機会を増やす。

【全体の概要】

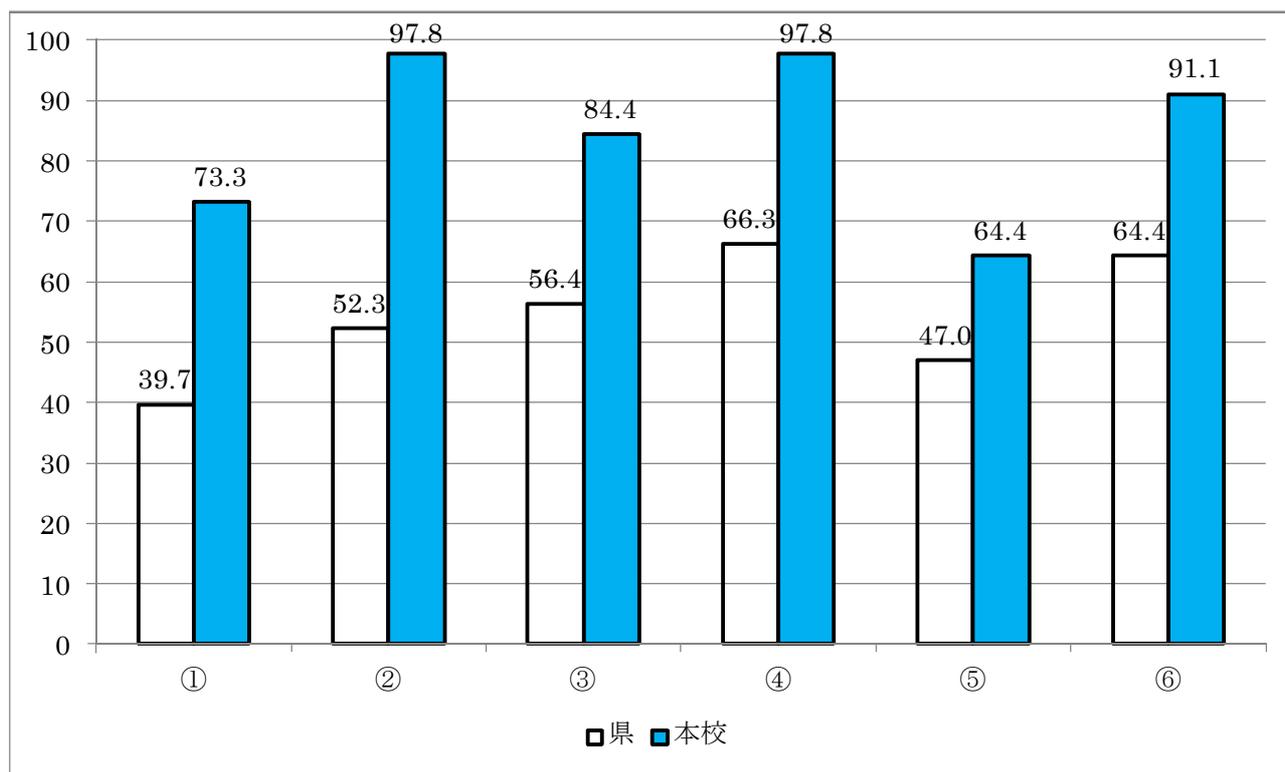
- 全体の正答率は県平均を大きく上回った。
- 到達度別平均正答率では、「要努力」「おおむね達成」は県平均を大きく上回った。「十分達成」は県平均とほぼ同じである。
- 観点別正答率は、「技能」は県平均を大きく上回った。「知識・理解」「数学的な考え方」は、県平均とほぼ同じである。

	分析の結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
数学的な考え方	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表から読み取れることを選ぶ問題は、正答率が高かった。 ● グラフの1目盛りを考えて答える問題や、算数の学習用語をキーワードとして使い記述する問題が県の正答率を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフや表などの資料を使ってプレゼンテーションする場面がほとんどないので、そういった場면을教科横断的に取り入れる。 ・ 「チャレンジタイム（自由に意見交換をする時間）」「みんなでタイム（全体での意見の練り合いの時間）」で図や式、言葉を使って説明する活動を継続しつつ、算数の学習用語を使って書く活動も取り入れる。
数量や図形についての技能	<p>正答率は県平均を大きく上回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整数や小数、分数の四則計算や図形の高さを考える問題で、高い正答率だった。 ○ 巻き尺やコンパスの使い方の問題も、高い正答率だった。 ○ 「技能」に関するすべての問題で、県の正答率を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、「すくすくタイム」や習熟での取り組みを継続する。 ・ 三角定規やコンパスを使う場面を多く設け、角度や長さに対する認識を深める。
数量や図形の知識理解	<p>正答率は県平均とほぼ同じである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 立体における面と面の関係や円の半径に関する問題では、正答率が高かった。 ● わる数と商の関係の問題や割合の基準量と比較量の関係で、正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の単元のたびに、三角形をはじめ、平行四辺形や円などの図形の特徴を繰り返し学習させることで定着を図る。 ・ 「もとにする量」「1とみる」「100%」などの言葉をもとに、基準量と比較量のことを考えさせる。 ・ 立体に関しては、実物を用いながら、学習を深めさせる。

【意識調査】

【数値が特に高かった項目】

①	学校の授業の予習をしている。 * 「している (44.4)」「どちらかといえばしている (28.9)」と答えた児童の割合
②	学校の授業の復習をしている。 * 「している (71.1)」「どちらかといえばしている (26.7)」と答えた児童の割合
③	学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている。 * 「そう思う (42.2)」「どちらかといえばそう思う (42.2)」と答えた児童の割合
④	「総合的な学習の時間」で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいると思う。 * 「あてはまる (71.1)」「どちらかといえばあてはまる (26.7)」と答えた児童の割合
⑤	友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意。 * 「あてはまる (42.2)」「どちらかといえばあてはまる (22.2)」と答えた児童の割合
⑥	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。 * 「あてはまる (48.9)」「どちらかといえばあてはまる (42.2)」と答えた児童の割合



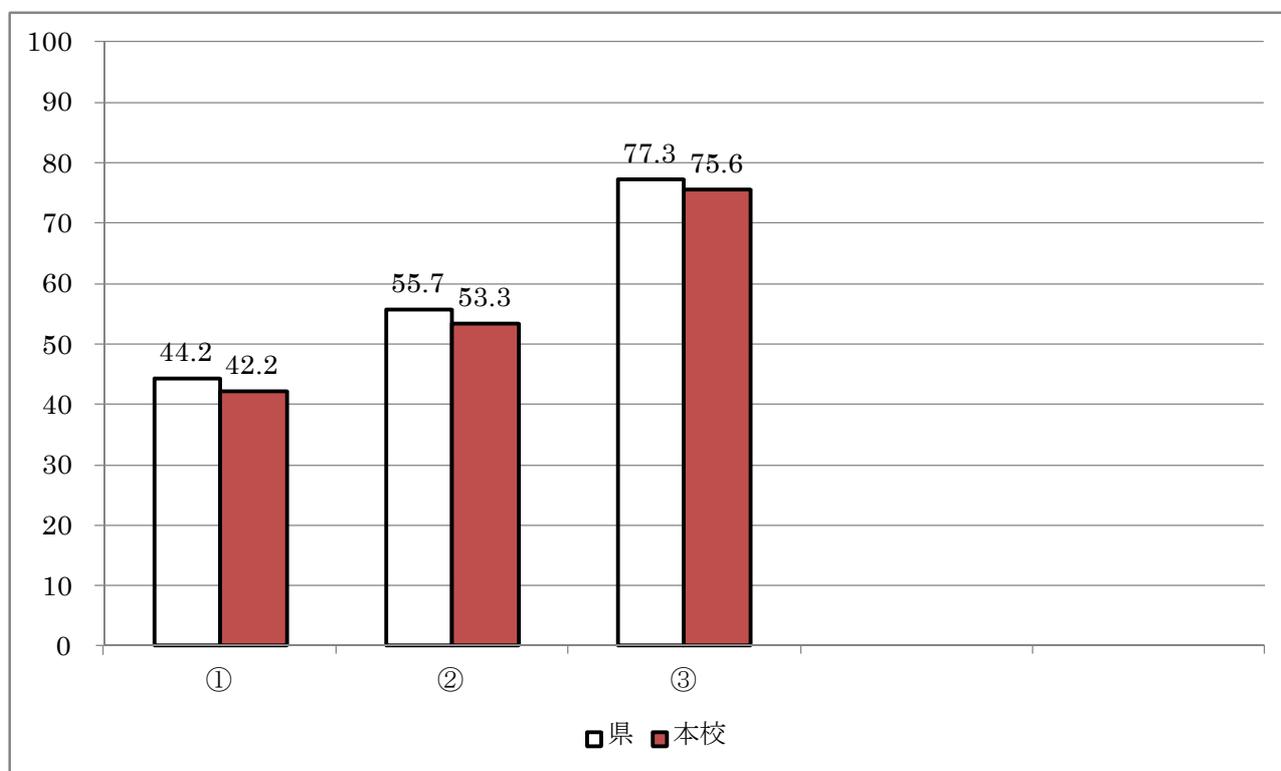
分析と今後の取り組み

- ・ 宿題を中心とした家庭学習で予習、復習の取り組みができています。特に自主学習では、自分がすべき課題を見つけ、考えて取り組んでいると考えられる。(①②)
- ・ 全校を挙げて言語活動の充実に取り組んでいる。友達と意見交流をする学習場面を、機会を捉えて設定していることで、自分の考えを話すことへの抵抗が小さくなり、自信をもち始めている。また、話す相手のことを考えて言葉を選んだり、分かりやすく説明しようとしたりする等、工夫もできるようになってきたと考えられる。(⑤⑥)

- ・ 総合的な学習では、授業参観や文化発表会での発表を経験したことにより、数値が高いと考えられる。今後も、継続的に発表の場を与えていく必要がある。(④)
- ・ 学級会では、ただ自分の意見を発表するだけでなく、議題や柱に沿った意見かどうか考え、友達の考えと比較しながら学級会に参加できていると考えられる。(③)

【数値が特に低かった項目】

①	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 * 「参加したことがある (42.2)」と答えた児童の割合
②	国語の勉強は好きだ。 * 「あてはまる (22.2)」「どちらかといえばあてはまる (31.1)」と答えた児童の割合
③	読書は好きだ。 * 「あてはまる (48.9)」「どちらかといえばあてはまる (26.7)」と答えた児童の割合



分析と今後の取り組み

- ・ ボランティア活動への参加が低い。ボランティアの意義や大切さを学校の中で教え、参加している児童を紹介するなどして啓発していく必要があると考えられる。(①)
- ・ 国語の学習の大切さは分かっているが、苦手意識をもっている児童が多い。読書が好きだと答えた児童の割合も少ないことから、まずは本に親しませることが大事だと考えられる。図書室へ行く回数を増やしたり、おすすめの本を紹介したりする等の工夫が考えられる。(②③)